

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社 アバンセラライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームころ 1階		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	平成28年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JivogyoCd=2372201943-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家で過ごしておられるようなアットホームな雰囲気、自由に過ごしていただいております。行事・レクリエーション等も積極的に取り入れています。また、近所の喫茶店に出掛けたり散歩したりも楽しみの一いつとなっております。年一回の御家族様や地域の方と交流するバイキング方式での食事は、利用者様好みの料理やアイデアを出しあい沢山の料理を楽しんでいただき大変喜ばれています。常に利用者様の体調の変化に気をつけ、急変があった時は主治医に相談して対応しております。各フロア毎月勉強会を行い、質の向上に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族のホーム及び職員への信頼は厚く、家族アンケートでは全家族がホームの介護サービスに満足の意を表している。家族からのホームの評価ポイント(自由意見)として、「職員の対応が丁寧である」、「職員がみな笑顔で楽しく仕事をしている」、「とても親切で優しい」、「このままホームを利用したい」等があり、信頼の深さが理解できる。
 評価当日には、家族のアンケートのとおり、利用者に明るく、優しく寄り添う職員と穏やかに笑顔を返す利用者の姿に親子、兄弟姉妹のような家族的な風景を垣間見ることができた。
 職員は互いに気兼ねなく意見を交わし、協力して利用者の居心地のよい暮らしづくりに取り組み、利用者本位の支援を実践するチームワークのとれたホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を毎日唱和し、よりよい介護とサービスに努めています。企業理念と行動指針をフロアーに掲示して意識できる様心がけている。	法人理念、行動指針をホーム内に掲示し、毎日唱和している。理念を踏まえ策定したホームの理念は、職員会議に取り上げ実践に反映するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩や出退社時に近所の方と挨拶を交わしたりしている。また、近くの喫茶店を利用者様と利用して顔なじみになっている。	町内会に加入し、祭りの子供獅子舞がホームに立ち寄り、利用者とは交流する楽しいひと時としている。ホームの行事(バイキング、クリスマス会)に地域を招待し、利用者、家族と地域とが交流する場としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練、運営推進会議、クリスマス会などイベントが行われる時には、地域の方もお招きしています。その際、認知症の人の理解や支援をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や研修内容を報告し、話し合いや意見を伺って、今後の介護に活かしている。	年6回開催の会議は、利用者、家族、地域、行政、知見者と多くの参加がある。ホームの報告、参加者である老人会役員、薬剤師の講話、食事の試食会と実りある会議とし、意見は実践に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課から生活保護の利用者様の面会にみえる。毎回、運営推進会議の議事録を介護保険課に提出している。市からの無料健康診断券を利用して施設からお連れしている。	市・介護保険課の窓口を訪ね、手続き、報告、相談等を行って協力する関係をき、行政から案内のある研修に職員が参加している。行政主導の「ケアマネージャー会」に管理者が参加し、交流している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除の理念及び方針を玄関に掲示し、身体拘束はしないと全ての職員が認識している。声掛けの言葉にも注意している。夜間は防犯上施錠を行う。	職員は研修に参加し、拘束をしない介護について理解している。ホームは自動車の往來の多い道路に面しており、帰宅願望の強い利用者があるにもかかわらず出入り口を施錠せず、センサーと職員の見守りで安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人から講師を招き虐待研修を施設で行っている。また、外部への研修に参加しミーティングで発表して共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修に参加し、関連する制度に関して理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとって頂き、御家族の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録の記入欄にご意見等を記入できるようにしている。また、面会時に直接職員に意見を言っていたりしている方もおり、その都度対応している。	家族の訪問時、電話報告の機会に意見を収集するよう努めている。ホームのバイキングやクリスマス会に家族を招き、気さくに交流して話を聴く機会としている。	家族と利用者の関りを継続できるよう、利用者の病院受診の同席、利用者や家族との交流機会を更に増やし、家族とホームが利用者を協働して支えるよう関係を築くよう望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社で施設長会議、エリア会議があり、各事業所の運営状況等を聞く機会がある。また、施設内の意見も伝えている。毎月1回、ミーティングを行い職員の意見や提案を聞いて反映させている。	毎月ミーティングを開き、意見交換の機会としている。参加できない職員は事前に意見を提出し、ミーティングの結果を回覧して全員で共有している。職員の関係は良好であり、遠慮なく意見を交換している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時職員全員の給与見直しを予定し、やりがいのある職場条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のやる気が継続できるよう心身のケアに重点を置いている。特に新人の育成では細かい配慮を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で職種ごとに研修を行い、意見交換し良いところを参考にして日々の介護に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者の自宅または施設に伺い、本人の意見をゆっくり傾聴し安心してもらえよう努めている。また、見学を兼ねておやつの時間を利用することでホームに馴染んで頂き入所へと結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族様から、在宅での生活困難状況や介護に対する不安等に耳を傾けることで、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の様子を担当者が記録に残している。訴えの困難な方の要望も気付ける様に利用者様との関わりを深めながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向も聞き、出来る事を職員と共に行っている。また、職員の知らない事を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が施設に来所された折には、日頃の様子を伝えたり日用品などお願いできる事はしてもらっている。また、面会時間に制限はなく時間のある時に気軽に来ていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に掛掛け、買い物や外食を楽しんでいる方もみえる。また、入所前の馴染みの方が時々来所され交流される方もいる。	利用者の友人の訪問を受け、時には友人と食事や喫茶店に外出して馴染みの関係を継続している。家族と、法事などに帰宅する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の体操やレクリエーションには皆様に無理せずできるだけ参加して頂き、利用者様同士が関われる様に見守りしている。トラブルが発生した際は机の向きを変えたり席替えを行って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても病院や施設に面会に行ったり、ご逝去された方は葬儀に参列し最後のお別れをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がその人らしく暮らしてもらえる様、日々の関わりを持ち意向の把握に努めている。そして知り得た情報は職員皆で共有している。	利用者の担当職員を中心に利用者、家族の話を確認し、3ヶ月を基本に生活歴、利用者の状態、意向などを記録、更新している。「ケース記録」に利用者の会話をそのまま記し、思いを掴むよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に御家族様から毎日の生活歴や生活環境を聞き情報を共有することで、ご本人に合った暮らしができるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様ひとりずつの感情、気持ちを大切に、もっておられる知識などをお聞きしながら日々の生活に取り入れている。また、状態に合わせて日中居室で休んでいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御家族が来所された時にご希望を伺ったり、なかなか面会に来られない方は電話にてお聞きしている。担当職員から利用者様の様子や気付き等意見を出してもらい介護計画に反映させている。	作成した介護計画の実施状況を検証し、利用者家族の意見を確認の上、会議を経て3ヶ月を目処に計画を見直している。計画作成担当者は、「その人らしい」利用者の思い、意向を反映した計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介助の内容は、個別のケース記録に記載し、職員皆が目を通し情報を共有している。毎月のミーティングで意見を出し合い問題があれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外は、原則は御家族対応になっているが、現状はほとんど施設対応で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室に来てもらったり、喫茶店や飲食店へ出掛けたりしている。また、地域の防災訓練にも毎年参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回かかりつけ医による往診がある。体調不良の時は受診し対応している。	かかりつけ医は利用者、家族の希望医としている。協力医は月1回往診し、利用者全員の健康管理に努めている。病院受診は家族同行を原則としているが、多くの場合職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないため、協力医と連携をとることで健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係に対してご本人様に関する情報の提供を行い安心して治療に専念できるように努めている。また、退院期日の問いかけやその後の支援を持つことで安心につなげる様に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から緊急時の対応の同意書をいただいております。医療機関から要請された時は提供できるようにしている。終末ケアに関しては、医療行為が必要になった時には医療に委ねるよう対応している。	入居時に、緊急時の対応を家族に説明して同意書を受理している。重度化に際しては、必要に応じ医師が家族に説明・助言する機会を設けている。医療行為のともなう場合は、適切な次の棲家について親身に家族の相談に乗り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、手順、そして応急手当のマニュアルを作成している。また、かかりつけ医にも相談している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐわかるよう各フロアに避難場所、経路を掲示してある。	地域も参加し年4回の訓練を実施している。通報、消火、避難、夜間想定訓練を行い、災害に備えている。地域の災害訓練に参加し、昨年導入したAEDは地域に告知し、協力関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録書類など個人名のあるものは使用しない時は方付ける様にしている。又、排泄介助などは小声で伝える様に努めている。書類やメモ等は必ずシュレッダーにかけ破棄している。	職員は何事も利用者の意向を大切にし、利用者のペース、判断を優先して支援している。自立した利用者のトイレ、入浴時は不要な支援を避け、利用者の誇りを損なうことのないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで、ご本人の何気ないつぶやきを大切に希望に添うように努め、言葉で自分の意思が伝えられない利用者様に対しては、表情や顔色から思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、一人ひとりの気持ちを大切に個々の生活パターンを優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容を利用している。自立の方は、自分で選んで好みの服を着てみます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立など工夫して、見た目にも配慮している。	食材配達業者から食材を調達している。職員は食事を利用者の楽しみとなるよう丁寧に味付けを行い、温かい料理を提供している。時には外食やバイキングを実施し、利用者の喜びとなるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握し、ミキサー食、刻み食等状態に合う食事を提供している。食事量、水分量は記録しているが、不足みの方には声掛けし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行い、希望者には週1回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで、排泄パターンを把握しており、自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を参考に、申し送り、職員会議に支援方法を取り上げ、便秘には水分の摂取量を調整し、頻尿、失禁は適切な声掛け、誘導を行って快適な排泄となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材やヨーグルトなど取り入れ、水分にも注意している。下剤が必要な場合は利用者様に説明して飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて努めている。入浴剤で温泉気分を堪能して頂き楽しんでもらっています。	週2回の入浴を支援している。長風呂や湯の温度の希望にも柔軟に対応し、歩行に不安のある利用者は安全を優先してシャワー浴としている。入浴を楽しめるよう、入浴剤や季節を感じるゆず湯を用意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間に決まりはなく、個々の生活習慣を大切にしている。部屋の温度、湿度調節を行い気持ちよく眠れる環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書にて一人ひとりの内服薬の種類・効能等を把握し、服薬チェック表を使用して飲み忘れや誤飲のないようダブルチェックして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った楽しみ方を優先して、時には皆で遊ぶことも取り入れ楽しんでいきます。毎日の洗濯物を干したり、たたんだりお手伝いもして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい時はできるだけ外出するようにしており、近所へ散歩に行っている。また、月1回行事で外出や喫茶店等に出掛けている。	日課の散歩時には地域住人と挨拶を交わし、時には花や野菜の差入れを受ける交流がある。弁当を準備して花見に出かけ、喫茶店、外食、屋外バーベキューと、利用者の暮らしの潤いとなるよう力を注いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を頂いている方は、事務所で保管して本人希望の買い物などに使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方には本人自らかけて頂いています。また、利用者様の希望で家族に繋がる専用の携帯を持ってみえる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには常に季節感を味わえる飾り付けなど工夫して掲示している。利用者様のテーブル配置は随時職員で話し合い配置している。	大きな窓から光を取り入れ、掃除の行き届いた嫌な臭いのない空間である。壁には行事の写真をA4サイズに拡大して誰もが分かるように紹介し、季節を感じる色紙の作品を掲示している。利用者の居心地の良い空間としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアーに数カ所のソファが設置しており、思い思いに座ってみえます。また、違うフロアーへ行き会話の機会も作っている。気の合った利用者同士は近くの席になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地の良い工夫などをして使い慣れた物などを置いています。また、ここでのスナップ写真も居室に飾っています。	自由に利用者の使い慣れた家具、置時計、仏壇、家族の写真、ぬいぐるみ、テレビ、鏡台、化粧水を持ち込み、居心地の良い空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアにわかりやすく名前を掲げトイレ場所など矢印などで分かりやすく工夫しています。また、夜間ふらつきのある方はセンサーを使用し転倒予防している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201943		
法人名	株式会社 アバンセラライフサポート		
事業所名	アバンセグループホームこころ 2階		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村東373-1		
自己評価作成日	平成28年 2月 1日	評価結果市町村受理日	平成28年 4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JiyousoCd=2372201943-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成28年 2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家で過ごしておられるようなアットホームな雰囲気、自由に過ごしていただいております。行事・レクリエーション等も積極的に取り入れています。また、近所の喫茶店に出掛けたり散歩したりも楽しみのひとつとなっております。年一回の御家族様や地域の方と交流するバイキング方式での食事は、利用者様好みの料理やアイデアを出しあい沢山の料理を楽しんでいただき大変喜ばれています。常に利用者様の体調の変化に気をつけ、急変があった時は主治医に相談して対応しております。各フロア毎月勉強会を行い、質の向上に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念を毎日唱和し、よりよい介護とサービスに努めています。企業理念と行動指針をフロアーに掲示して意識できる様心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩や出退社時に近所の方と挨拶を交わしたりしている。また、近くの喫茶店を利用者様と利用して顔なじみになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防訓練、運営推進会議、クリスマス会などイベントが行われる時には、地域の方もお招きしています。その際、認知症の人の理解や支援をお願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や研修内容を報告し、話し合いや意見を伺って、今後の介護に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課から生活保護の利用者様の面会にみえる。毎回、運営推進会議の議事録を高年福祉課に提出している。市からの無料健康診断券を利用して施設からお連れしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の排除の理念及び方針を玄関に掲示し、身体拘束はしないと全ての職員が認識している。声掛けの言葉にも注意している。夜間は防犯上施錠を行う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人から講師を招き虐待研修を施設で行っている。また、外部への研修に参加しミーティングで発表して共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者後見人の司法書士の方からわかりやすく説明を受けることで理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとって頂き、御家族の不安や疑問に対して誠意を持ってお答えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある来所記録の記入欄にご意見等を記入できるようにしている。また、面会時に直接職員に意見を言っていたいただいている方もおり、その都度対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社で施設長会議、エリア会議があり、各事業所の運営状況等を聞く機会がある。また、施設内の意見も伝えている。毎月1回、ミーティングを行い職員の意見や提案を聞いて反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時職員全員の給与見直しを予定し、やりがいのある職場条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のやる気が継続できるよう心身のケアに重点を置いている。特に新人の育成では細かい配慮を心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で職種ごとに研修を行い、意見交換し良いところを参考にして日々の介護に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望者の自宅または施設に伺い、本人の意見をじっくり傾聴し安心してもらえるよう努めている。また、見学を兼ねておやつの時間を利用してホームに馴染んで頂き入所へと結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族様から、在宅での生活困難状況や介護に対する不安等に耳を傾けることで、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の様子を担当者が記録に残している。訴えの困難な方の要望も気付ける様に利用者様との関わりを深めながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意向も聞き、出来る事を職員と共に行っている。また、職員の知らない事を教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が施設に来所された折には、日頃の様子を伝えたり日用品などお願いできる事はしてもらっている。また、面会時間に制限はなく時間のある時に気軽に来ていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に掛掛け、買い物や外食を楽しんでいる方もみえる。また、入所前の馴染みの方が時々来所され交流される方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の体操やレクリエーションには皆様に無理せずできるだけ参加して頂き、利用者様同士が関われる様に見守りしている。トラブルが発生した際は机の向きを変えたり席替えを行って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても病院や施設に面会に行ったり、ご逝去された方は葬儀に参列し最後のお別れをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様がその人らしく暮らしてもらえる様、日々の関わりを持ち意向の把握に努めている。そして知り得た情報は職員皆で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に御家族様から毎日の生活歴や生活環境を聞き情報を共有することで、ご本人に合った暮らしができるようにサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様ひとりずつの感情、気持ちを大切に、もっておられる知識などをお聞きしながら日々の生活に取り入れている。また、状態に合わせて日中居室で休んでいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、御家族が来所された時にご希望を伺ったり、なかなか面会に来られない方は電話にてお聞きしている。担当職員から利用者様の様子や気付き等意見を出してもらい介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介助の内容は、個別のケース記録に記載し、職員皆が目を通し情報を共有している。毎月のミーティングで意見を出し合い問題があれば介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外は、原則は御家族対応になっているが、現状はほとんど施設対応で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の美容室に来てもらったり、喫茶店や飲食店へ出掛けたりしている。また、地域の防災訓練にも毎年参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回かかりつけ医による往診がある。体調不良の時は受診し対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないため、協力医と連携をとることで健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係に対してご本人様に関する情報の提供を行い安心して治療に専念できるように努めている。また、退院期日の問いかけやその後の支援を持つことで安心につなげる様に配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から緊急時の対応の同意書をいただいております。医療機関から要請された時は提供できるようにしている。終末ケアに関しては、医療行為が必要になった時には医療に委ねるよう対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、手順、そして応急手当のマニュアルを作成している。また、かかりつけ医にも相談している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて飲料水、食品等備蓄してある。全職員がすぐわかるよう各フロアに避難場所、経路を掲示してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録書類など個人名のあるものは使用しない時は方付ける様にしている。又、排泄介助などは小声で伝える様に努めている。書類やメモ等は必ずシュレッターにかけ破棄している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を多く持つことで、ご本人の何気ないつぶやきを大切に希望に添うように努め、言葉で自分の意思が伝えられない利用者様に対しては、表情や顔色から思いを汲み取るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは基本的に決まっているが、一人ひとりの気持ちを大切に個々の生活パターンを優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回訪問美容を利用している。自立の方は、自分で選んで好みの服を着てみます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立など工夫して、見た目にも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量を把握し、ミキサー食、刻み食等状態に合う食事を提供している。食事量、水分量は記録しているが、不足みの方には声掛けし促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行い、希望者には週1回歯科衛生士による口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレ誘導を基本に、排泄記録を記載することで、排泄パターンを把握しており、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材やヨーグルトなど取り入れ、水分にも注意している。下剤が必要な場合は利用者様に説明して飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて努力している。入浴剤で温泉気分を堪能して頂き楽しんでもらっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間に決まりはなく、個々の生活習慣を大切にしている。部屋の温度、湿度調節を行い気持ちよく眠れる環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供書にて一人ひとりの内服薬の種類・効能等を把握し、服薬チェック表を使用して飲み忘れや誤飲のないようダブルチェックして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った楽しみ方を優先して、時には皆で遊ぶことも取り入れ楽しんでいきます。毎日の洗濯物を干したり、たたんだりお手伝いもして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候のよい時はできるだけ外出するようにしており、近所へ散歩に行っている。また、月1回行事で外出や喫茶店等に出掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を頂いている方は、事務所で保管して本人希望の買い物などに使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望の方には本人自らかけて頂いています。また、利用者様の希望で家族に繋がる専用の携帯を持ってみえる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには常に季節感を味わえる飾り付けなど工夫して掲示している。利用者様のテーブル配置は随時職員で話し合い配置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアーに数カ所のソファが設置しており、思い思いに座ってみえます。また、違うフロアーへ行き会話の機会も作っている。気の合った利用者同士は近くの席になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地の良い工夫などをして使い慣れた物などを置いています。また、ここでのスナップ写真も居室に飾っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアにわかりやすく名前を掲げトイレ場所など矢印などで分かりやすく工夫しています。また、夜間ふらつきのある方はセンサーを使用し転倒予防している。		